

■ 野外活動のための安心・安全講座

2021（令和3）年度

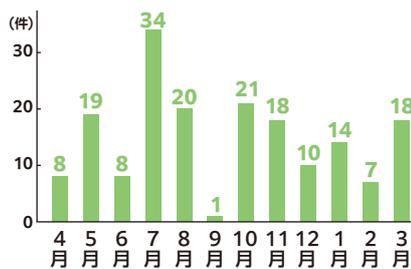
そなえよつねに共済 事故データ分析

「そなえよつねに共済」で取り扱った事故データ分析の結果がまとまりましたので報告いたします。2012年度から全加盟員が保険（2014年度からは共済）対象となり、ボーイスカウト全体における事故の傾向が把握できるようになりました。2021年度の事故発生件数（報告件数）は178件で傷病の延べ数は269件でした。データやコメントなど、安全管理にお役立てください。

発生月別

COVID-19の影響で低下していた活動数が回復の傾向を見せたことに伴い、事故発生件数が2020年度の104件から、2021年度は178件と増加しています。また、9月の件数が1件となっています。こ

■ 月別事故発生件数 (n=178)



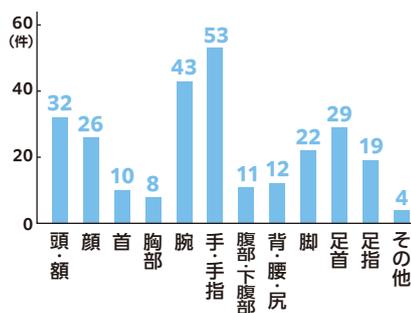
これは緊急事態宣言が発出されていた時期と重なります。

夏季と冬季に事故が多い傾向は例年と同様です。7月から9月の事故発生件数は全事故件数の30.9%を占めています。夏季の活動に特徴的な調理中の火傷や切り傷の他、ダニなどによる虫刺され被害も多数報告されています。12月から3月の事故発生件数は全事故件数の27.5%を占めています。この時期はスキーやスケート中の転倒などによる骨折や捻挫など重症化する事故が多くなっています。

部位別（延べ数）

受傷部位の傾向としては、頭部や顔、腕から先、脚下が83.3%でほとんどを占めています。この受傷部位の傾向は毎年変わらず、特に手・手指への受傷が多くなっています。

■ 部位別事故発生件数 (n=269)



手・手指への受傷の内訳を見ると、利き手側

でない手・手指に対して包丁での切り傷、ハンマーなどでの打撲、ダニなどによる虫刺されが多数を占めています。ハンマーを使用する際には利き手でない側は手袋をするなど、各作業の際には十分な安全対策が必要であることを改めて確認しましょう。

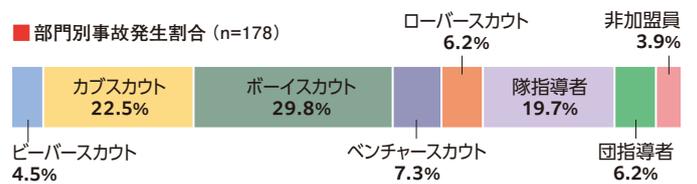
部門別 上位3傷病

	1位	2位	3位
ビーバースカウト	骨折 [3件]	脱臼・捻挫・靭帯損傷/犬・へび等咬傷 [各2件]	歯牙欠損 [1件]
カブスカウト	骨折 [16件]	打撲 [10件]	擦り傷 [8件]
ボーイスカウト	打撲 [12件]	やけど [11件]	擦り傷/骨折 [各10件]
ベンチャースカウト	脱臼・捻挫・靭帯損傷 [4件]	裂けた傷/やけど [各3件]	擦り傷/切り傷/骨折/歯牙欠損 [各1件]
ローバースカウト	打撲 [7件]	裂けた傷 [3件]	脱臼・捻挫・靭帯損傷 [2件]
指導者	骨折 [16件]	裂けた傷/打撲 [各6件]	切り傷 [5件]

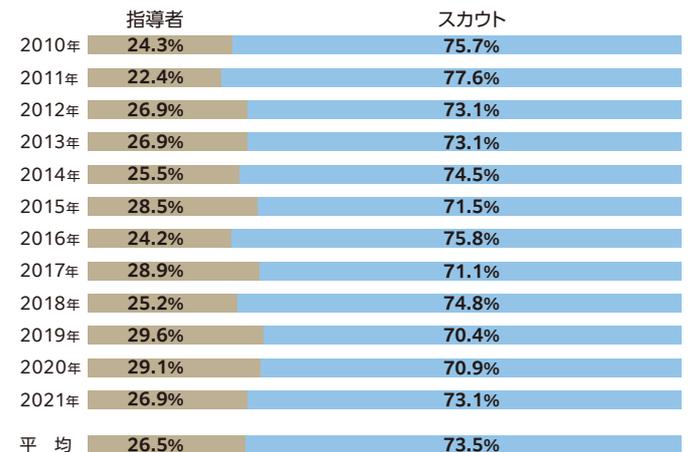
部門別

前年度に比べ、部門別の傾向はビーバースカウトが0.3%減少、カブスカウトが4.2%増加、ボーイスカウトが10.6%減少、ベンチャースカウトが3.5%増加、ローバースカウトが3.3%増加でした。全事故（非加盟員を除く）に占めるスカウト全体では73.1%でした。一方、指導者の割合は26.9%と昨年より若干低下しました。

■ 部門別事故発生割合 (n=178)



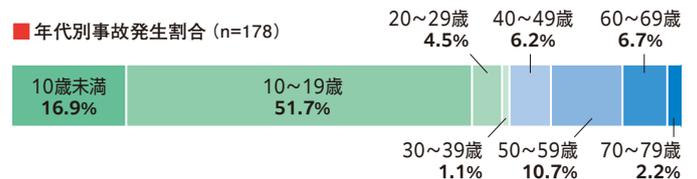
■ 指導者/スカウトの事故発生割合の変化



年代別

年代別では19歳までの割合が68.5%にあたる122人でした。20代8人、30代2人と少数ですが、40代11人、50代19人、60代12人を占めました。70代でも4人の事故報告がありました。

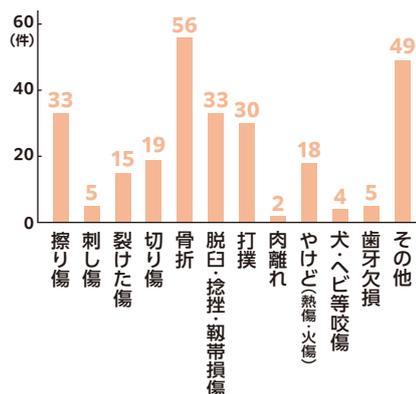
■ 年代別事故発生割合 (n=178)



傷病別（延べ数）

傷病別では「骨折」の割合が最も多く、昨年度より17件増加の56件で第1位でした。第2位は「擦り傷」と「脱臼・捻挫・靭帯損傷」で昨年度から増加の33件でした。第3位の「打撲」は昨年度の17件から13件増加の30件でした。これら4傷病で全傷病の56.5%を占めています。

■ 傷病別事故発生件数と事故割合（n=269）



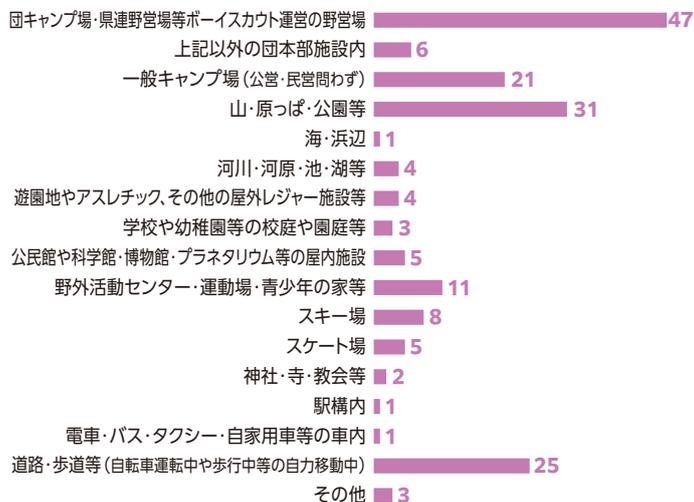
「その他」の項目はそのほとんどがマダニなどによる虫刺されです。事前の準備や適切な服装をすることで被害を減らすことができます。また「その他」の中には熱中症も見られます。活動が活発化することで熱中症のリスクが高まるのが懸念されます。

発生場所

事故の発生場所として最も多かったのは「団キャンプ場・県連盟野営場等ボーイスカウト運営の野営場」でした。ついで「山・原っぱ・公園等」です。COVID-19により活動が抑制されていましたが、活動が再開されることにより野外での事故発生が増加しています。

また移動中の事故も引き続き多く発生しています。移動中は大きな事故につながる可能性が高く、今一度安全に対する意識が必要です。

■ 生場所と発生件数



まとめ

共済事業に移行して8年目、COVID-19が流行してから2年目の事故分析となりました。例年と比較すると活動は縮小しましたが、前年度と比較すると活動数の増加に伴い事故発生件数も増加しています。受傷内容も重傷化の傾向にありますので今一度安全に対して高い意識を確認いただきたいと思います。分析において気になった点をまとめました。

第一に、各部門における傷病の上位に骨折や脱臼など重傷化しやすいものがあるということです。これらの傷は完治までに長い時間を要するとともに、日常生活における制限も多くなります。行動前に体を十分にほぐしておくことなど事前の準備を十分に行うことも有効と考えられます。

活動内容

ビーバー部門での事故1位は「準備・かたづけ」で3件、2位は「水遊び」で2件でした。指導者などが準備・かたづけをしている際に事故が発生しています。

カブ部門での事故1位は「ハイキング・ナイトハイク」で8件、2位は「ゲーム」「休憩中・自由時間等」「移動中」で各4件でした。ハイキングなど活発な活動の中で事故が発生しています。

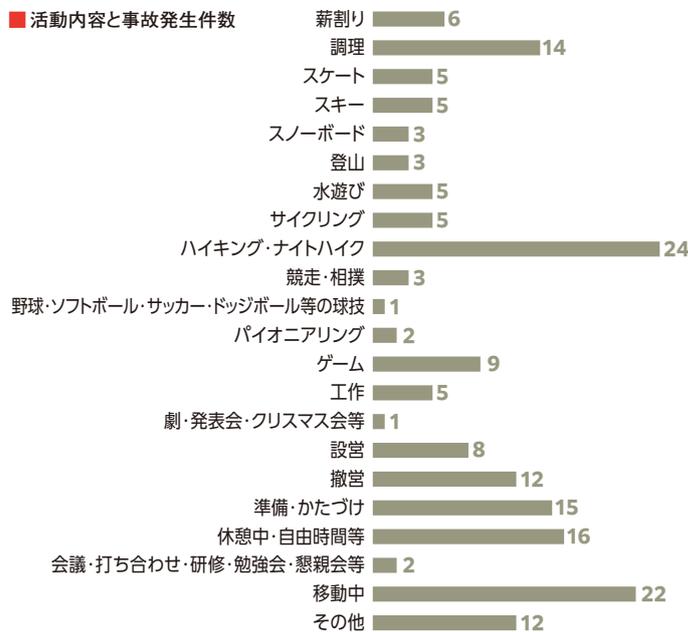
ボーイ部門での事故1位は「調理」「ハイキング・ナイトハイク」で各8件、2位は「休憩中・自由時間等」で6件でした。調理中の事故として熱湯による火傷が多くなっています。誤って倒してしまうなどの事故であり、周囲の整理整頓や作業時の声掛けなどで事故を減らすことも可能かと思えます。

ベンチャー部門での事故1位は「スノーボード」「ハイキング・ナイトハイク」「準備・かたづけ」で各2件でした。

ローバー部門での事故1位は「休憩中・自由時間等」「移動中」で各3件でした。

指導者の事故1位は「移動中」で8件、2位は「撤営」で5件でした。

■ 活動内容と事故発生件数



■ 部門別 最も事故が多かった活動内容

部門	最も事故が多かった活動内容	プログラム
ビーバースカウト	準備・かたづけ [3件]	
カブスカウト	ハイキング・ナイトハイク [8件]	
ボーイスカウト	調理/ハイキング・ナイトハイク [各8件]	
ベンチャースカウト	スノーボード/ハイキング・ナイトハイク/準備・かたづけ [各2件]	
ローバースカウト	休憩中・自由時間等/移動中 [各3件]	
指導者	移動中 [8件]	

第二に、マダニによる傷病が多く見られることです。マダニに咬まれることでダニ媒介感染症のリスクも高まります。マダニは春から秋にかけて活発に活動するといわれています。草むらや藪などに立ち入る場合、長袖長ズボンの着用、足を完全に覆う靴、帽子や手袋の着用など肌の露出を少なくすることが大切です。

最後に、移動中の事故がスカウト・指導者問わず多いことです。車道や歩道での事故は大きな怪我の可能性がある上に周囲の方を巻き込む可能性があります。交通ルールの順守はもちろん、自転車のヘルメットなどの保護具の着用により、事故の発生を抑止と怪我の防止に努めましょう。